

Mさん： 大豊町のMです。

土佐の赤牛のことです。20年前くらいまでは、土佐の赤牛と言えば黒牛と同じような単価で売られていたと思います。その後黒牛と赤牛は子牛で販売しますと10万円くらい安く経過をしてきましたが、高知県は赤牛を推進するんだと導入関係の融資も赤牛を対象にして、安いにもかかわらずずっと飼ってきました。今和牛が安いと言われても、最低価格を大きく上回っています。しかし土佐の赤牛だけは最低価格を大きく下回って、経営が存続できない状態で、大きい農家から順番に黒牛を導入していくという、土佐赤牛の崩壊現象は最近急速に強まっています。高知県が土佐赤牛をブランド化して売り出そうと努力をされていることは承知していますが、その努力が実る頃には赤牛はいなくなるのではないかという懸念があります。赤牛がブランド化されるまでをどのように支えて、ブランド化に位置づけていくのかは、今一番大切なことではないかと思います。そのことについてお伺いしたいと思います。

知事： ご指摘いただきましたように、赤牛についてはこれからいろいろな形でブランド化していこうと、いい親牛ができて、非常に肉種のいい牛がこれから市場に多く出ていこうとする時だと担当から聞きました。他方で今、特に赤牛の中でも土佐の赤牛だけが、特に子牛は値段が下がっていて、非常に危機的な状況だという話も伺っています。少なくとも、年度を越えるくらいの時期になれば新しい産品が出てくる、かつて買った赤牛で商売ができるようになってくる、前が開けてくるのではないかという展望がある時、この半年位が最も危険な時ではないかと思っています。ですから、それに対して何か対応を取らなければいけない、金銭的にも一定のバックアップする施策をしていかなければいけないと9月の補正予算で対応しようと思っています。とにかく今一番厳しい時だと思いますから、この今の一番厳しい時を凌ぐためにどうするのか、そのための具体的な対策を取っていきたいと思っています。